資料-2　懇談会開催趣旨、委員名簿

～鴨川流域懇談会について～

■開催趣旨

○　鴨川は、四神相応の思想から平安京の造営に深く関わり、以来、数々の歴史の舞台となり、歌舞伎などに代表される文化を育み、時には白河法皇の「天下三不如意」の一つにあげられるほどの暴れ川にその姿をかえ、千二百年にわたる京都の歩みとともにたえまなく流れています。

○　とりわけ鴨川の治水を振り返ると、古くは平安時代において治水を担う「防鴨河使」が置かれたり、豊臣秀吉による洛中を囲む「御土居」の築造、また江戸時代には京都所司代による「寛文新堤」の築造など、数多くの治水事業が行われ、近年では、昭和10年の京都大水害を契機とした大規模な河川改修が行われ今の鴨川の姿があります。

○　その後も三条・七条間の「花の回廊」をはじめ段階的に整備を進めてきたところですが、引き続き、多くの人口と資産が集積する京都市の中心を流れる川にふさわしい、安全で美しい鴨川づくりを計画的に進めていく必要があると考えています。

○　鴨川は京都の歴史文化に深くかかわり、北山や東山を望む美しい景観とともに山紫水明の京都の顔として多くの人々に親しまれ、それを取り巻く歴史的や文化的な観点からも、京都のまちに深く関わりのある川として、京都のみならず全国の多くの人々から関心を集めている川と言えます。

○　このように京都の象徴とも言える鴨川の今後の整備について検討していくに当たっては、「治水」「利水」「環境」といったいわゆる河川の機能面だけでなく、その歴史性や文化性に着目しつつ、幅広い観点からの議論を踏まえることが重要です。

○　このため、京都の川、自然、歴史、文化、産業、観光などに造詣の深い有識者からなる「鴨川流域懇談会」を開催し、鴨川を巡る様々な課題やその解決の方向性、さらには今後の鴨川のあるべき姿について幅広く議論を行うものです。

■懇談会委員名簿

座　長	中　川　博　次	立命館大学客員教授、京都大学名誉教授
委　員	嘉　田　由紀子	京都精華大学教授
〃	金　田　章　裕	京都大学教授
〃	杉　江　貞　昭	鴨川を美しくする会事務局長
〃	田　中　真　澄	岩屋山志明院住職
〃	中　村　弘　子	漆工芸家 千家十職塗師第十二代中村宗哲
〃	新　川　達　郎	同志社大学教授
〃	西　村　明　美	柊家株式会社取締役
〃	村　田　純　一	京都商工会議所会頭、村田機械株式会社代表取締役会長
〃	森　谷　尅　久	武庫川女子大学教授
〃	吉　澤　健　吉	京都新聞社編集局次長
行　政	京都府 土木建築部長	
〃	京都市 建 設 局 長	

（敬称略、委員五十音順）

資料-3　委員プロフィール

鴨川流域懇談会委員紹介

【座長】

中川博次（なかがわひろじ）　立命館大学客員教授、京都大学名誉教授　（河川工学）

建設省、京都大学防災研究所、京都大学教授を経て、平成７年から現職。日本を代表する河川工学の第一人者として、国、地方自治体及び関係機関の各種検討委員会等の委員長を多数歴任。京都府においても総合開発審議会委員、京の川づくり懇談会委員、京の川再生検討委員会委員長や京都市の水共生プラン基本方針策定委員会委員長などを歴任され、河川工学のみならず京都の川とまちづくり等の幅広い観点からご指導をいただいている。

【委員】

嘉田由紀子（かだゆきこ）　京都精華大学教授　（環境社会学）

滋賀県琵琶湖研究所主任研究員、滋賀県立琵琶湖博物館総括学芸員などを経て、2000 年（平成 12 年）から現職。琵琶湖をフィールドにした人と環境の関わりの研究を通じ、琵琶湖博物館の企画から開館に立ち会われる。水や川との関わりをテーマに地域の人との共同研究を進められている。日本水フォーラム副会長、子どもと川とまちのフォーラム代表を歴任。著書に「生活世界の環境学」「水辺ぐらしの環境学―琵琶湖と世界の湖から」（共著）、「環境社会学」「水辺遊びの生態学」など多数。

金田章裕（きんだあきひろ）　京都大学教授　（人文地理学）

京都大学文学部長、副学長などを経て、2005 年（平成 17 年）9 月から現職。1200 年以上にわたる歴史に培われた世界有数の文化都市京都において、国内外から様々な文化を担う人々を招き、人類の目指すべき新たな方向を議論する「京都文化会議」組織委員会企画委員長などを歴任。著書に「古代日本の景観」「ｵｰｽﾄﾗﾘｱ景観史」「古地図からみた古代日本」「古代景観史の探求」など多数。

杉江貞昭（すぎえさだあき）　鴨川を美しくする会事務局長

鴨川をきれいにしようという個人の意思で集まってきた住民のボランティア団体として、河川美化と環境保全の輪を広げるために 1964 年（昭和 39 年）に結成された「鴨川を美しくする会」の事務局長に平成 12 年就任され、現在に至る。同会は、結成以来約 40 年の永きにわたり、鴨川クリーンハイクをはじめ自然観察会や鴨川納涼、鴨川茶店などを通じて、鴨川をはじめとする河川の環境保全や美化に関する啓発活動に取り組まれている。

田中真澄（たなかしんちょう）　岩屋山志明院住職

高野山に入行、1967 年（昭和 42 年）鴨川の源流に位置し、鴨川との関わりの深い岩屋山志明院住職となられ現在に至る。京都水と緑を守る連絡会代表幹事、明日の鴨川の橋を考える会委員、淀川水系流域委員会委員、宇治川河川保全利用委員会委員、京都創生百人委員会委員などを歴任。著書に「ダムと和尚」など。

中村弘子（なかむらひろこ）　漆工芸家　千家十職塗師第十二代中村宗哲

千利休家の十職の中で塗道具を創作する中村家の第十二代中村宗哲を 1986 年（昭和 61 年）に襲名され、現在に至る。月次、伊勢物語、百人一首をテーマとした彩漆器個展を各地で開催。京都府あけぼの賞、京都府文化功労賞、京都市文化功労賞などを受賞されるなど、漆工芸の創作活動に従事されるかたわら、鴨川改修協議会委員、京の川づくり懇談会委員、京都府環境審議会委員、京都市基本構想等審議会委員などを歴任され、京都の伝統や文化からみたまちづくりなどの観点からご指導いただいている。

新川達郎　**同志社大学教授　（行政学）**

東北学院大学助教授、東北大学助教授などを経て、1999 年（平成 11 年）から現職。政府や地方自治体の制度に関する分析とその改革、行政における住民参加について研究されるとともに、京都府府民参画行動指針検討委員会座長、京都市市民参加推進懇話会委員などを歴任。著書に「地域空洞化時代の行政とボランティア」(中央法規、共著)など。

西村明美　**柊家株式会社 取締役**

明治維新のちょうど 50 年前にあたる文政元年創業の京都を代表する老舗旅館「柊家」の女将としてご活躍されるかたわら、京都のみならず全国各地の「京都のもてなしの心」をテーマとした多くの講演の講師も努められる。京都市観光大使おこしやす京都委員会委員、みやこ女将の会会長、京都商工会議所女性会理事などを歴任。

村田純一　**京都商工会議所会頭、村田機械株式会社 代表取締役会長**

村田機械株式会社常務取締役を経て、1970 年（昭和 45 年）代表取締役社長、2003 年（平成 15 年）代表取締役会長に就任。京都工業会副会長、京都経済同友会代表幹事など多数の要職を歴任され、2001 年（平成 13 年）２月からは、京都商工会議所会頭として、地域経済の活性化はもとより、京都の持つ特性を最大限に引き出しながら、京都ブランドの推進、日本を代表する美しい京都のまちづくりなど「美感都市・京都」の実現に積極的に取り組まれている。

森谷尅久　**武庫川女子大学教授　（都市文化史）**

京都市史編纂所員、京都大学人文科学研究所講師、京都市歴史資料館初代館長などを経て、1989 年（平成元年）から現職。京の歴史・生活・文化を多角的に研究されるかたわら、京都府・京都市・大津市の文化財保護審議会委員などの公職を多数歴任。著書に「京の川」「京医師の歴史」「滝沢馬琴」「大御所時代」「京都観光文化検定試験公式テキスト」など多数。

吉澤健吉　**京都新聞社編集局次長**

京都新聞社編集局夕刊編集部長、文化報道部情報担当部長、文化担当部長を経て、2004 年（平成 16 年）10 月から現職。1200 年の歴史を誇る京都のもつ伝統の知恵を 21 世紀にどう発信していくかをテーマに、宗教、大学、伝統文化・産業を統合した「京都学」の構築に努められている。特別取材班 ｷｬｯﾌﾟを努められた、連載「こころの世紀」は 1994 年度（平成６年度）新聞協会賞を、また「学都ルネサンス」は 1996 年度（平成８年度）坂田記念ｼﾞｬｰﾅﾘｽﾞﾑ賞をそれぞれ受賞。

【行政】

京都府土木建築部長　土屋光博

京都市建設局長　中島康雄

敬称略、委員は五十音順、（　）は研究分野

資料-4　開催経過

	進め方	テーマ及び論点	基調講演
第１回 (H17.3.26)	現状把握・テーマ設定	**～京都と鴨川～** 鴨川の現状と課題を共有し、「京都と鴨川」や「鴨川への思い」など全般的な意見交換を行った後、今後の進め方について議論した。	**「千年の都と鴨川」** 立命館大学客員教授 京都大学名誉教授 中　川　博　次
第２回 (H17.6.11)	テーマごとに議論	**～千年の都京都の美しい鴨川～** 鴨川を軸とした水環境や景観について議論した。	**「京の川と水文化」** 武庫川女子大学教授 森　谷　尅　久
第３回 (H17.9.10)		**～誰もが親しめる鴨川～** 鴨川がより一層多くの人々から親しまれる川となるための取り組みなどについて議論した。	**「まちづくりと川」** 京都大学教授 金　田　章　裕
第４回 (H17.12.3)		**～安心・安全の鴨川～** より安全で安心できる鴨川づくりのための取り組みなどについて議論した。	**「水害に強い地域社会づくり」** 京都精華大学教授 嘉　田　由紀子
委員現地視察 (H17.12.18)		懇談会委員が、鴨川を視察し、現状と課題について議論を行った。	
第５回 (H18.3.18)	とりまとめ	**～これからの鴨川～** １～４回の懇談会での議論や提案の取りまとめを行った。	**「住民参加の川づくり」** 同志社大学教授 新　川　達　郎

第１回鴨川流域懇談会の開催結果

日　時	**平成１７年３月２６日（土）　午後３時～５時３０分**
場　所	**京都府公館　レセプションホール**
出席者	**委員（全員出席）　１１名** 中川座長、嘉田委員、金田委員、杉江委員、田中委員、中村委員、新川委員 西村委員、村田委員、森谷委員、吉澤委員 **府・市行政関係者　約３０名** 知事、土木建築部長、京都市建設局長　ほか **一　般　参　加　者　約２０名**
内　容	**○基調講演　「千年の都と鴨川」** **中川博次（京都大学名誉教授、立命館大学教授）** **○話題提供　「鴨川の現状と課題」河川課長** **○議　　事　・京都と鴨川に関する全般的な意見交換** **・懇願会の今後の進め方について**

結　果

今後の懇談会では、「治水・防災」をはじめ「環境・景観」「河川利用」等のテーマごとに、鴨川のあり方について議論を深めていくことを確認

＜委員からの主な意見＞

・鴨川は、美しさ、歴史、文化、人の関わりなど、あらゆる面において京都が誇る日本の川と言える。
・145万人都市を流れ、アユが棲める鴨川は世界的にもめずらしく京都の誇りである。
・鴨川は平安京造営以来、あらゆる面で京都のまちとの関わりの長い歴史を持つ、世界でも最も古い歴史を持つ由緒ある川。
・諸外国の河川に比べ、日本の河川はじっくりと行政と住民が話し合いながらつくられてきた。その典型が鴨川と思う。
・鴨川から供給される豊かな水が京都のくらしを支えてきたが、都市化の進展に伴い水循環が変化してきた。健全な水循環への回復による「みずみずしい京都のまち」は鴨川を軸について考えていくべき。
・自然のままに変化する川らしい川、やさしい川、怖い川を感じられることが大切。
・洪水という万が一のことに対してどこまでコストをかけるかという問題がある。そういう点では、何もかも行政まかせでなく、個人で　自分の身を守ることも大事になってくると思う。
・鴨川を保全するためには上流域の環境とりわけ森林をいかに保全していくかが重要
・40年前と比べると河川美化への意識変化もありきれいになってきた。鴨川は府民の共有財産という意識を持つことが重要。

第２回鴨川流域懇談会の開催結果

日　時	**平成１７年６月１１日（土）　午後３時～５時５０分**
場　所	**京都リサーチパーク　サイエンスホール**
出席者	**委　員　８名** 中川座長、嘉田委員、杉江委員、田中委員、中村委員、新川委員、西村委員、森谷委員　　（欠席）金田委員、村田委員、吉澤委員 **府・市行政関係者　約３０名** 土木建築部長、京都市建設局長 ほか 関係課担当者 **一 般 参 加 者　約３０名**
内　容	**○基 調 講 演　「京の川と水文化」　森谷尅久（武庫川女子大学教授）** **○事務局説明　「鴨川の水環境と景観について」河川計画室長** **○議　　事　「千年の都・京都の美しい鴨川」をテーマに、鴨川を軸とした水環境や景観について意見交換**

結　果

○かつての京都には鴨川などを水源とした生活用水としての水路網があり、そのことが京都の暮らしや文化を支えてきた。鴨川の水環境を考える時、流域全体の健全な水環境の保全あるいは再生、さらには都市構造にも着目していく必要がある。

○景観の保全については、他都市を流れる河川についての取り組み事例などを十分調査した上で、鴨川についての方策を検討していくことが重要である。

＜委員からの主な意見＞

・まちづくりにおける水の重要性を再考し、水循環の再生の様々な試みを行う時期。市内河川全体をとらえて考えていくべき。
・かつて京都のまち中には川や水路あり、生活を支え文化を育んできた。その再生を考えることも必要ではないか。
・花の回廊から見える西側のビル群と屋上にある空調設備が景観を大変阻害している。また、東側は規制がなくネオンなどがあり、両岸の美しさを考えるべき。
・景観の問題は法的な規制だけではでは難しく、住民意識を如何に高めるかが重要。地域住民や学識経験者による景観形成のための協議会の設置や望ましいﾃﾞｻﾞｲﾝなどのｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝづくりなどの取組みが必要ではないか。
・景観法や文化的景観は、これまでの近代化という画一化から、地域個性の尊重への大きなパラダイムの変化。鴨川を巡る景観についても、こういった観点を積極的に取り込むべき。
・行政と住民のﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟによる川づくり、そのための住民意識の向上が必要。広瀬川等の例からも条例はその出発点。
・鴨川の美しさを市民参加で再発見していくようなことを行ってはどうか。
・鴨川に架かる橋についても補修するなど化粧直しを考えるべき。

＜一般参加者からの主な意見＞

・北山杉の間伐材を使い木工沈床等を設置すれば、河川環境もよくなり産業も活性化する。
・鴨川上流域を含めてきれいな鴨川の保全を。

第３回鴨川流域懇談会の開催結果

日　時	**平成１７年９月１０日（土）　午後３時～５時３０分**
場　所	**京都リサーチパーク　サイエンスホール**
出席者	**委　員　６名** 中川座長、金田委員、杉江委員、田中委員、西村委員、吉澤委員 （欠席）嘉田委員、中村委員、新川委員、村田委員、森谷委員 **府・市行政関係者　約３０名** 土木建築部長、京都市建設局長ほか関係課担当者 **一　般　参　加　者　約２０名**
内　容	**○基 調 講 演　「まちづくりと川」　金田章裕（京都大学副学長）** **○事務局説明　「鴨川の魅力とその課題について」河川計画室長** **○議　　事　「誰もが親しめる鴨川」をテーマに、鴨川がより一層多くの人々から親しまれる川となるための取り組みについて意見交換**

結　果

○鴨川は、清澄さ、親水性という点から世界にも類を見ない河川であり、その魅力を未来にも引き継ぐべきであり、例えば、歴史文化に関する資料等を集積、学習していくような拠点の整備や市民活動の交流、連携などの取り組みにより、鴨川を京都の誇りとして、地域社会全体が共有していくことが大切である。

○自由に快適で安全に利用できる川づくりが必要で、例えば、散策路のネットワーク化やバリアフリー化、統一の案内標識の設置など利便性や安全性に配慮した整備を進める必要がある。

＜委員からの主な意見＞

・子供達が水や川のルーツをどう認識していくかは大事なテーマ。鴨川はそれを学習する川として最適。
・人格形成において自然とのふれあいは大切であり、川とのかかわり方を学校教育の場でも伝えていくべき。
・放置自転車によって散策路の通行に支障がある箇所が見られる。府市連携して対応していくべき。
・放置自転車は撤去するだけでなく、まち全体で自転車利用のルールづくりも必要。
・ふと立ち止まって景色が眺められるような、橋の整備を。
・京都には水との関わりの長い歴史があり、親水性と治水をどう両立させていくかが重要。
・安全が当たり前の現代において、親水性の確保に当たっては洪水特性を踏まえ、そのためのソフト的な対策が重要。
・利用者の安全確保のため河川情報板を設置することも必要ではないか。

＜一般参加者からの主な意見＞

・鴨川を元に戻す際は、その回復水準（目標）を決め、取り組むべきである。
・川の源の水を汚すことのないように。

第４回鴨川流域懇談会の開催結果

日　時	**平成１７年１２月３日（土）　午後２時～５時**
場　所	**京都府公館　レセプションホール**
出席者	**委　員　７名** 中川座長、嘉田委員、杉江委員、田中委員、新川委員、西村委員、吉澤委員 （欠席）金田委員、村田委員、森谷委員 **府・市行政関係者　約３０名** 土木建築部長、京都市建設局長ほか関係課担当者 **一　般　参　加　者　約２０名**
内　容	**○事務局説明　「鴨川の治水対策の現状と課題について」河川計画室長** **○基 調 講 演　「水害に強い地域社会づくりについて」** **嘉田由紀子（京都精華大学教授）** **○議　　事　「安心・安全の鴨川」をテーマに、治水、防災対策のあり方などについて意見交換**

結　果

○鴨川は昭和10年の大洪水以来、大きな浸水被害は発生していないが、最近の豪雨の状況を踏まえると、必ずしも十分安全であると言い切れない。

○治水対策の長期的目標は、概ね100年に１度の洪水にも対応できること基本とするが、対象流量の決定に当たっては、流域の土地利用形態等を踏まえ十分精査が必要。

○一方、直ちにこの目標を達成するには様々な課題があることから、中期的な目標に基づく段階的な河川整備を着実に進める必要がある。

○今後策定する河川整備計画において、上・中・下流の河川特性、氾濫特性などを十分踏まえた、実現可能な計画をしっかりと検討されたい。

○併せて、万が一の被害を最小限にとどめる手立てとしてのソフト対策について、府・市・地域住民等のより一層の連携により、さらなる充実に努められたい。

＜委員からの主な意見＞

・最近は局地的集中豪雨が多発傾向にあり、鴨川でも何時発生しても不思議でない。すべてを施設整備で対応することは困難であり、洪水の脅威にどこまで受容できるのか議論した上で、整備方針を検討していくべき。

・鴨川の氾濫による、産業、社会基盤に与えるダメージを考えると、着実に治水対策を進めるべきであるが、その際には、景観に与える影響、コストとリスクの許容範囲を冷静に分析する必要がある。併せてソフト対策を積極的に取り組むべきである。

・治水対策は、ハード整備の様々なメニューの組合せと土地利用の誘導など流域全体で考えていく必要がある。

・親水性を確保しつつある程度の河床掘削もやむを得ないのでは。また例えば堀川等への洪水の分散も考えてはどうか。

（次項に続く）

（前項からの続き）

・中小河川の浸水対策として、各戸で雨水を貯めるといった意識を高めるていくことが重要。また、鴨川においても中上流域で、公園やグランド、農地を活用して少しずつでも貯めることを着実に進めるべき。
・鴨川の治水は単に治水機能だけでなく、その歴史性、文化性と如何に調和を図るのかが最大の課題だと思う。
・中州や寄州が目立つ。景観や自然への配慮もあるが、治水面から対応を考えるべき。
・最近は洪水の出方が早く、それに対応していくには住民間の横のネットワークを構築していくことが大事。
・洪水への意識を高めるには、まず子ども達に伝え、そこから親に地域に広げるといった方法は効果的。災害教育は昨年の災害以降、関心が高まりつつあり、これを面的に広げ記憶を記録にとどめることを。
・現在の地下街は無防備に近く、早急な防災マニュアルづくりが必要。
・高齢者等の災害弱者への対応、犠牲者を出さないためにも、地域コミュニティの再構築が不可欠。
・ソフト対策は情報提供にとどまらず、どうすれば情報が伝わるのかといことまで踏み込んでいくべき。

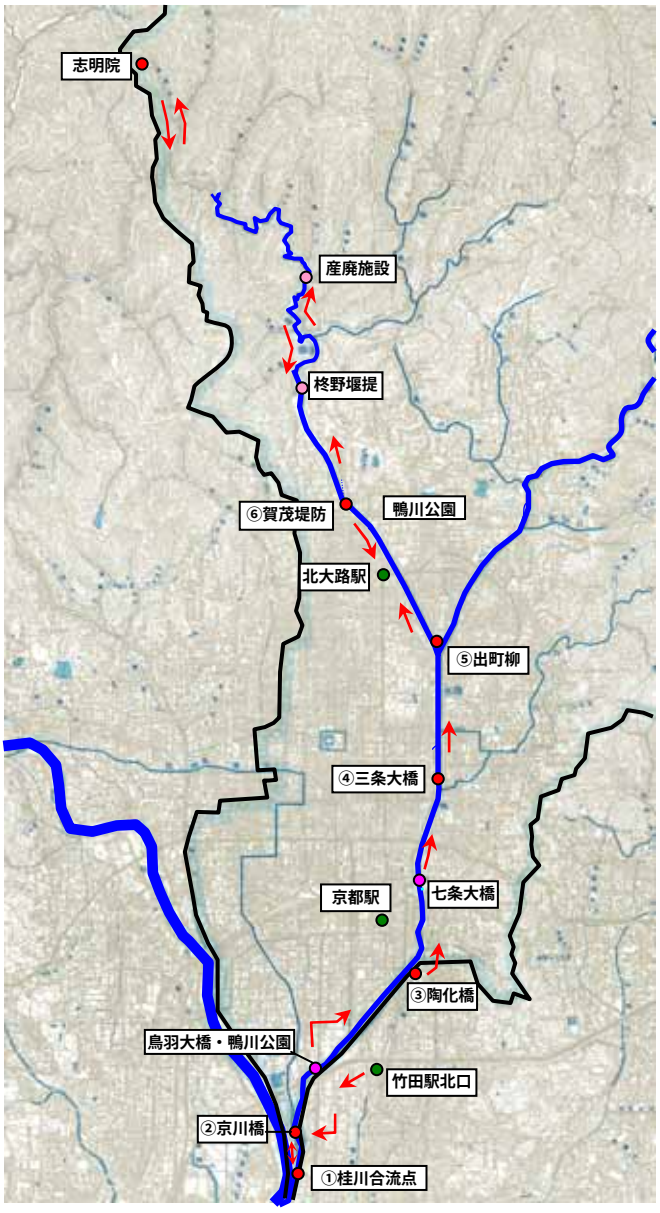
＜一般参加者からの主な意見＞

・上流域では土砂置場や資材置場がここ数年増えているように思われる。流域住民がみんなで鴨川を保全しようという合意形成、そのための啓発をお願いしたい。
・防災関係情報は、受け手側にとってよりわかりやすいものに。

鴨川流域懇談会現地視察の開催結果

日　時	平成１７年１２月１８日（日）　午後１時～５時
場　所	鴨川（桂川合流点～雲ヶ畑付近）
出席者	**委　員　７名** 中川座長、嘉田委員、金田委員、杉江委員、田中委員、新川委員、西村委員 （欠席）村田委員、森谷委員、吉澤委員 **府・市行政関係者　約１０名** 河川計画室長、京都土木事務所長、京都市水と緑環境部長ほか関係課担当者
内　容	○鴨川の現況を把握するため、桂川合流点から雲ヶ畑の一級起点附近まで現地視察を実施

調査ルート及び箇所



■視察行程

13:00　竹田駅出発

13:20～13:30　①桂川合流点付近

13:40～13:50　②京川橋付近

（Ｒ１、十条通り）鳥羽大橋、鴨川公園

14:05～14:20　③陶化橋付近

（川端通、高水敷）五条大橋

14:30～14:40　④三条大橋付近

（高水敷、川端通）

14:55～15:10　⑤出町柳附近

（賀茂街道）鴨川公園、

15:20～15:30　⑥賀茂堤防（御土居）

（京都京北線）柊野堰堤、産業廃棄物処理施設

15:50～16:45　岩屋山志明院にて意見交換

17:30　北大路駅解散

第５回鴨川流域懇談会の開催結果

日　時	**平成１８年３月１８日（土）　午後３時～５時３０分**
場　所	**京都リサーチパーク　サイエンスホール**
出席者	**委　員　６名** 中川座長、金田委員、杉江委員、田中委員、新川委員、吉澤委員 （欠席）嘉田委員、西村委員、村田委員、森谷委員 **府・市行政関係者　約３０名** 土木建築部長、京都市建設局長ほか関係課担当者 **一　般　参　加　者　約２０名**
内　容	**○基 調 講 演　「住民参加の川づくり」　新川達郎（同志社大学教授）** **○議　　事**　本懇談会の取りまとめとして、鴨川流域懇談会報告書（案）について意見交換

結　果

○懇談会のまとめとしては、概ね報告書（案）の内容で了解。

○なお、委員意見を踏まえて必要な修正をした上で、各委員並びに座長の最終確認を経て最終決定とする。

＜委員からの主な意見＞

・鴨川は、歴史、文化的特性を有し、ひとの生業と密接な関係にあることを強調すべき。
・河川環境の現状に関しては、上・中・下流それぞれの特徴をしっかりと記述すること。
・課題の解決には、京都府と京都市がより一層協調し取り組む必要がある。
・鴨川に関する課題を行政をはじめ関係機関及び住民が共通の認識とし、さらにその解決方策を継続的に考えていけるような枠組みづくりが必要
・鴨川の自然や防災などを学校教育の中で積極的に取り組むべきである。
・鴨川もしくは京都の川をテーマとした情報発信拠点を設置すべきである。

＜一般参加者からの主な意見＞

・上流域の森林や環境を守るべきである。
・具体的な取り組みを出来ることから進めてほしい。
・中州の管理方法など身近な日常管理を知らない人が多いので、情報発信をお願いしたい

資料-5　一般募集意見

大分類	小分類	一般募集意見
環境・景観に関すること	流域環境	鴨川と支流との一体化の環境づくりも必要。
		京都市内の中心河川として各方面からの要望も多いと思うが、市街河川とはいえ河川本来のあるべき姿を出来るだけ残してほしい。
		人中心の環境づくりよりも、あらゆるものの共生出来る所を作るべきではないか（人の立ち入らない部分）。
		「鴨川保全条例」をぜひ!!
		鴨川上流には塀に囲まれたあやしげな資材置き場がたくさんあります。昨年 12 月車を解体している所を見ました。市の中間処理場も拡張され、自然破壊がとても心配です。上流域をきれいで安全な場所としてほしいです。
		鴨川上流で産業廃棄物を処理しないでほしい。
		上流、山幸橋よりまだ上の賀茂川はとても残念。高い塀にかこまれて、ゴミが山とつまれたり、産廃焼却をしている所など（8～9 ヶ所）があります。水質も心配です。元の北山杉の美しい自然にもどしてほしい。
		山幸橋より北には廃棄物処理場が 7 ヶ所（又はそれ以上）あって、賀茂川の水がきれいとはとても思えないのです。
		京の顔、鴨川を未来の世代に引き継ぐこと、そして洪水から市民のくらし、財産を守るため有効な対策の検討をお願いしたい。 ただその際、山幸橋上流をどうするのか、保全ゾーンをつくり鴨川を守ることや、高野川上流の開発の規制など思いきった対策をうちだす必要があるのではないか。理念にとどまらない実効ある措置をとっていただきたい。
		・「河川管理上の課題」に山幸橋より上流地域も入れて下さい。それが一番の問題！ ・珪藻類にも奇形がでています！
		白川の上流部の環境保全と美化活動を日頃しているものとして出来る限り関心をもって参加したい。 具体的に色々のご意見を期待しています。
		桜のころの北大路橋から出町まで初冬の比叡山にかかる虹、ユリカモメの飛来から北帰までの賀茂川。季節毎にそれぞれ楽しく、毎日歩いても飽きない良さがあります。
		賀茂川の山幸橋より北には、産業廃棄物処理施設が 8 ヶ所あります。鴨川流域懇談会として、この上流域を是非視察に来てください。
		この美しい鴨川を次の世代にも又その次にも残したいものです。 そのためには、柊野より上流をぜひ見てください。不法投棄されたゴミや塀に囲まれた中でゴミが山のようになっているところ。又、京都市が許可したゴミ処理場があります。ぜひ、これ等を撤去させ鴨川保全条例をつくりホタルのとぶ自然体にもどしたいものです。
		鴨川は、さわればさわる程、自然が崩れるので河川工事をしないように。
		鴨川上流の廃棄物処理場<投棄場>（合法か不法かわからないが）の撤去をぜひやって欲しい。許可されているならその根拠を示す。
		上流の廃棄施設(?)を何とかして欲しい。所々に“段”がつくってあるが、あれはどのような防災上の理由があるのですか？なめらかな方がいい。
		・知人に鴨川の自然環境を調査（水生昆虫、鳥、堤防植生等）している研究者が幾人かいます。それらの調査結果をまとめるところ、調査を統一的にコーディネートする人材が必要と思います。 ・流域環境・都市環境整備と統一的に考える必要があるのでは。
		観光的に三条～四条を見ていてはダメで、まず上流域の整備が至急必要である。廃棄場が上流にあっては何をやっても未来がない。
		産業廃棄処理業者の営業も守りつつ賀茂川流域以外の場所への移転などのことも行政として行う必要があると思います。
		前回フロアーから発言させてもらいました。その時、特に柊野より上流の環境と清流を守るために流域周辺（産廃処理施設など）の整備が必要と思います。
		鴨川本川上流の産業廃棄物中間処理施設の撤去はできないものなのでしょうか。高校生の頃、その少し下流で飯盒炊爨（はんごうすいさん）をした写真があって、それほど清らかな水だったのですが、生命の存在を脅かすような施設ができて本当に残念です。行政の長の権限があるのだから、本気でやれば撤去指導できると思います。
		鴨川の風景、川の水がきれい等、心精神的な面をやすらかにしてくれる自然環境、なお一層、整備して自然を大切にしてほしい。 京都のシンボルとして守り続けてほしい。

大分類	小分類	一般募集意見
環境・景観に関すること	流域環境	産廃施設おことわりの意見が多いですが、今の社会の構造上、必要なものです。どこに作るかだけなのです。なくすのではない。 自然と同じくつきあいできる施設にしたらいいのです。
		とにかく、鴨川隣接の産廃施設は何とか撤去にむけて指導を強めて下さい。 知事が再度、鴨川を汚してもらったら困ると言ってもらえればよいと思います。
		雲ケ畑街道の地元の人から「川が白く濁っている」と報告があったと聞きました。産廃施設を一度、座長、委員の皆さんで視察なさって下さい。源流に目をつむっていて、どんな素晴らしい議論も実りあるものにはならないと存じます。もし、もう行っておられるなら感想をお聴かせ下さい。
		第3回の懇談会で座長がまとめで言われた賀茂川上流の産業廃棄物処理場の問題について京都市・京都府はどのように対処されたのでしょうか？
		賀茂川上流(雲ケ畑～柊野ダム)の様子を各委員はご覧になりましたか？又、産業廃棄物などの処理場が何ケ所もありますが、どのように思ってられますか？
		京都に住んで鴨川は好きで、大切な川と思って暮らしています。 目に見えないことで上流に市の中間処理場で燃やし続けるごみ汚れている様に思うと不安です。上流地域を保全して下さい。
		鴨川の上流について話がないことに不安を感じます。 大雨(昨年来の集中した豪雨)にでもなれば、上流域の資材置場がどうなるか。 砂利を高く河川に盛って土地を広げているのは？
		40年程昔、「鴨川を美しくする会」があった。毎回、ゴミを拾うことが活動だと仰っていた。今日の鴨川を見て、美しくなったものだとありがたく感謝しました。
		京都盆地のほとんどは鴨川へ支流を通じ、雨水が流入するが、かつて、山際や周辺部は田畑があってかなり保水力があったが、今なお、周辺部は色々と開発され残念でならない。昨年9月、知事とのミーティングで大文字山の話合いで、京都の里山や地下水を守るためこれ以上絶対に周辺部の開発は許可しないでほしい。保水力を守ってほしいとお願いしております。
		雲ケ畑街道(川の流れと同じ)美しい紅葉が半減しています。 高いへい2.5mくらいが建てられ景観も台無しです。へいの中は何をされているのか、どこが河川は管理されてるのか、京都の奥座敷はとってもひどい状況です。一度、見て下さい。
	水環境	バス（37番）で来る客達は「山紫水明とはまさに、このことだね」とほめます。しかし、今宮通りあたりの、また出雲路橋を少し上がったあたりの賀茂川にそそぐ排水口（？）は雨上がりには、なにか臭います（お風呂屋さんの排水のような…）。
		私が小学生だった約３０数年前に比べ、水はきれいになり、京阪電車が通っていたせいもありますが、薄汚く人が入れなかった左岸が整備され、人がさらに集まるようになり、良くなったと思います。
		市内で下宿していた昭和46～50年、鴨川はキレイでなかった。 現在のキレイな鴨川をこれ以上手を入れずに残して欲しい。
		御薗橋から北大路橋までずっと賀茂川が臭います。散歩しながら川の汚れがわかるほどです。
		上流の高野川なども含め、排水は流入しないようにしてほしい。出町辺りでも水がくさい。
		メダカが多く泳ぐようなきれいな水の川にしてほしい
		（他の都市河川に比べ）圧倒的にきれい。 ５月にも来て、雨の翌々日に完全にきれいになっていて驚いた。
		現在も賀茂川上流にはほたるがとんでいる。 これを守るにはホタルの住める水質が必要。現在水質が変化してきている（悪い方に）との専門家（けいそう類）の意見もあります。 原因を究明し対策が必要ではと思います。 未来の子供にきれいな賀茂川を残すのは私達大人の努めと思います。
		現在の清流をいつまでも残してください。
		昭和46～50年下宿していた時の鴨川は汚かった。 今のきれいな鴨川をいつまでも残しましょう。
		台風が来て大雨の予報があった23日夕、散歩をしていたら、鴨川の右岸（今宮通りつき当り付近）がとても臭かった。興ざめです。子供たちが川に入っても大丈夫かと案じます。
		柊野ダムより下流は、水が汚いように感じます。 川の水が洗剤臭く、泳ぎたくないです。上流をこれ以上汚さないでほしいです。
		鴨川に限らず河川について考える際には自然の在り様を基本とすべきである。自然に逆らう姿勢や行政方針はいづれ破綻がくる。平安京内に小河川が多数存在したのは、もともと沖積盆地に都城を築いたためであって、その意味からは平安京は水難の町である宿命を負っている。それを近代土木工事で解決するのではなく、活かした町作りをすべきである。話題になった西洞院川のみならず、多くの小河川が隅々を流れる京都の町を目指すべきであろう。上流部、下流部においても自然のシステムに合致した流域整備を目指していただきたい。
		鴨川をコアとして関連の水路を含めて、流域全体を空間として捉えることは重要な考え方であると思う。歴史的な水路を文字通り掘りおこすことができ、水路が張り巡らされた都市への回帰は一つの夢として追い求めていけないか？

大分類	小分類	一般募集意見
環境・景観に関すること	水環境	今年も子供達と団栗橋－松原橋間の鴨川で水遊びをしました。子供達は泳ぎました。私の子供の頃も泳ぎましたが、水がきれいになったように思います。水から上がっても臭くありません。
		水質－北幸橋、山幸橋の産廃焼却、廃棄物の問題等の解決など、橋下住民の解決
		相変わらず、夜の散歩のとき、猛烈にくさい箇所（二箇所）があります。
		出町辺りを子供と一緒に行くことが時々、ありますが、水が臭いことがよくあります。高野川の近くに住んでいますが、排水が混ざっているのを毎日見ているので、川の中へ子供が入らないようにしています。 水質をもっときれいにしていただきたいです。
		東京から京都に生活基盤を移して、早 24 年。当時、街中を流れる川がきれいで、鮎が釣れるなんて、カルチャーショックを受けたことを今でも覚えています。いまだに変わらない川をいつまでもこのままで!!
		地震の時の安心安全は？賀茂川・鴨川の水を使うことになるのだろうか。もしそうだとしたら、山幸橋より北、なんとかなりませんか。
	動植物	水生生物にとって安全な住みかとなるような（人にも優しい）川であってほしい。
		サギがかわいい。もっともっと鳥が多く生息する川になってほしい。
		草刈りの時期を自然の動植物のサイクルと合わせられないか。
		鴨川全体に言えること、例えば以前はススキ等多くあったが整備されすぎてなくなっている。いい意味で雑草等も残す必要を感じます。
		鴨川は水が少ない時でも水清く、魚も多く見られます。
		鳥が多数いるのが目障り、危険も感じる。駆除せよ。
		川岸に生えている草をむやみに伐採しないでほしい
		川魚－来鳥・ブラックバス対策など
		たまに川中にブルトーザーを出して川原の土砂をならしているが、川中に内陸を残すことが、野鳥の安全地帯になり、野鳥の飛来が望めるが、両岸にだけ残すことは止めてほしい。
		土堤の整備も悪くないが、地域に植生や環境に合った植栽にしてほしい。学者の参加が必要か。
		野鳥と川の流れの調和になっていない。
	大気	北区の空気中のダイオキシン濃度は（松葉による測定）伏見の次に高いのです。なぜでしょう？上流に住む者としてなんとかしなければと気が焦ることです。
	景観	鴨川周辺の建物がところどころ出ていてみぐるしい。
		橋から見える風景をもっと美しくするためにも鴨川周辺の建物は高さ制限が必要。
		景観を大事にしてほしい
		20 年近く前、出雲路橋の近くなど京都市内に 6 年住んでいました。出雲路橋から上流の風景は、まさに山紫水明でした。
		出町より上流、賀茂街道沿い柊野辺り迄の景観が好きです。
		出町の橋から上流を眺める時、鴨街道を走る時など背景の山と川の流れる様子に気持ちが落ち着きます。このような線豊かな「遠景」もずっと残していきたいと感じます。
		鴨川景観と町屋等家並景観と整合させると良いと思う。
		景観については昔のイメージが大切と思うなら、生活文化の向上による便利な生活による代償であり、何らかの不便が生じていくのでは景観による規制は、住んでいる人には不便なものであり、議論の中心となっているのは、生活を営んでいない人である。
		他所から京都に帰って、鴨川を眺めると本当に美しいと思います。
		景観ばかり考えても、川にはいることも子供達にやめるように言わなければならない。一級河川て、一体何でしょうか。
		観光としての景観をよくしていく対策について、他の地域の努力、外国などの工夫などの資料を作り、もっと具体的に議論された方が良かったのではないでしょうか。
		いちばん多くの人の、目にとまる鴨川はＪＲ鉄橋上下流付近だろう。 ここの景観対策を行えば京都のイメージアップになるのでは？
		鴨川の多面性、様々な景観について知るいい機会となった。 住民との対話が必要だと思われる。 鴨川はつくづく景観問題を考える上でいい題材だ。
		（鴨川美観地区）鴨川界隈の景観形式に対するこの会からの発信が出来たら、非常に有意義となるのでは。
		景観行政もようやく始まったばかりである。規制を受ける市民といかに対話を進めるか頑張って欲しい。補助制度もいいが、やはり分かり合うことにより、市民側からの動きも期待したい。景観に対する意識政策も進めるべきだ。これは、国の役割だと思われる。
		初めて参加しました。鴨川の見方、景観の捉え方にはいろいろあるなぁと思いました。いろいろあるので、いろいろな残し方をする方が、みんなの親しめる川になるように思えました。 手をつけず、残す場所もあった方がいいです。
		寒い冬、ユリカモメが飛ぶ四条大橋、南座をバックに眺める時、又、その上流、比叡山をバック（背景）にした鴨川の風景が大好きです。孫と川辺の散歩も良好です。

大分類	小分類	一般募集意見
河川利用・管理に関すること	河川利用	右岸の高水敷が歩きやすいと良いと思う（砂を入れて、だいぶ以前よりは良くなったが）。また、四条付近にスロープがあればよいと思う。
		汚れていながらも私の子供の頃は、友達と鴨川に入ってよく遊んだものですが、子供達が川に入る風習がなくなったのが残念です。今は、夏に子供と一緒に川に入って遊ぶようにしています。
		ナイロン袋は持ってるけど、トイレ後は見てないと、ほったらかしの犬の飼い主やボールがなくてもバット振り、ゴルフの練習、近くを通るのは少しこわさを感じる。
		車の中から眺めることが多いのですが、孫が小さい時よく連れて亀の飛び石などでよく遊びました。四条～三条まで歩いた時、大きな魚がいました。
		５年ほど前、宇治平等院へ行き宇治川のほとりで休憩しました。川辺はイスもあり感激しましたが、ふと悪臭に気付きました。
		・座して休める所が欲しい。 ・行政主導ではなく、市民誘導的な展開を強く。 ・ベンチ等、休息場所のさらなる設置 ・ゴミ収集場所が少ない。
		三条～七条は花の回廊で整備され、左岸がきれいになり、人々も散策できるようになり良くなりましたが、右岸は以前のままであり、コンクリートの枠に石が入ったところや、石が飛び出て固められたところなど、歩きにくく危険です。左岸と同様に直してもらいたいです。ついでに、荒神橋の上流にあるような飛び石を、三条～四条（蛸薬師公園前）や団栗橋～五条（仏光寺公園前）にも造ってもらえれば、子供達が喜ぶと思います。
		鴨川を様々な人が利用しやすくなるような整備をしてほしいです。 条例制定の際には、生物学者や市民の意見も取り入れたものにして欲しいです。
		鴨川は都市内渓流だと位置づけております。都市の中にも水遊びの鴨川を目指す必要があるのではないでしょうか。
		今のままでは少々危険（子供や増水時）があるとは感じるが、京都の景観を損なわない上での安全対策は非常に難しいと思う。
		・公園や散策路の利用や又観光客の為に「トイレ」が不足。「北山橋」「上賀茂橋」「御薗橋」等に「トイレ」がない。 ・特に「北山橋」については「北土木事務所」の「北西角」の活用です。
		私達夫婦が月に 1～2 回散歩に行くのに楽しみに致しておりますコースです。自然に触れながら、ゆっくり時間をかけて、心の和を感じます。（昔の川の様にどこからでも水に触れる事が出来ないのがとても残念に思っています。）見るだけと触れるとは大差が有ります。
		河川の管理、利用をすべて行政に求めるのはおかしいのでは（無理があるのでは）。 利用する人々の意識の問題のなさがありすぎるのではないでしょうか。
		子供達に川遊びがさせられる鴨川であってほしいです。川遊びの文化が残るような自然環境・景観に対する教育・啓蒙が必要ではないでしょうか。
		府の河川計画室長のお話では、川の利用の捉え方として、「川は施設」という考え方であると思われる。しかしながら「川の利用」に関しては、府の言うこともさることながら、川の水運や水を使うことが本来であるべきではないかと思う。「美しさ」「快適さ」「まち・人との関わり」を観点とするなら、自然生態系の主要な要素である「川」は、考慮されていないこととなると思われる。要は、流域、特に上流域も含めた現状、把握と施設展開が必要。
		河川敷の整備、放置自転車の撤去など、行政サイドからの住民へサービスを行うということも重要だが、河川敷をイベント会場として使うなど、積極的に住民の側から川に近づき、危険と安全に対するシステムを確立して、「普段は快適な空間」としての河川をアピールする必要があると思う。
		鴨川を「きれいだな」と思い通り抜けるだけでなく、じっくりそこに止まって「川とは何であるか」を考察できる場所が必要なのではないか？イベント会場として毎日曜くらい何か出来る施設を作ってはどうでしょうか。「今週は鴨川で何のイベントをやっているのだろう」と行けば何かある場所にしてはどうでしょうか。
		散策路－トイレの充実など（北山橋、上賀茂橋、御薗橋など）
		治水事業と自主防災運営面での鴨川対策の主題ですが、災害の無い期間が多い事と基礎に考えると、「日常の鴨川を活用する」事にも目を向けた考察が欲しい。
		私事ですが、「楽洛まちぶら会」の一員として、三条通り中心に「三条あかり景色」を実施運営して参加していました。三条大橋・三条小橋のライトアップを行い、大変好評を得ました。安全な治水事業が出来ているからこそ、ライトアップ等の行事も可能であると認識しています。「河川を楽しく利用出来る」事を治水事業とは、親子の関係にあると思いますので、是非、明るい親子関係が続けられる様に願っています。
		ゴミ等は即処理する方法を考えてほしい。例　ボランティア（有料、無料）を利用する。
		鴨川が美しくなるに伴いホームレスが目立ちます。 地域住民が協力する体制を考えてほしい。
		川の中のゴミ処理をもっと、こまめにしてほしい。
		利用者のモラルによるものですが，ロケット花火や打ち上げ花火など，危険を感じる行為が目にあまります。みんなで気持ちよく利用したいものです。また，ゴミのポイ捨てについても同様に思います。毎日の清掃によりきれいに保たれているわけですが，高齢者事業団等への費用も相当なものと思います。

大分類	小分類	一般募集意見
河川利用・管理に関すること	河川管理	鴨川上流でも川であまご、あゆ釣りをしていますが道路から見えない鴨川をよく見る。例えば廃材を燃やしている、下の川では川の中に冷蔵庫が埋まっていたりします。一度、皆様も川の中を歩いてみてください。
		ゴミもきれいに掃除され、きれいに保たれていると思います。時々、ビニールを持ちゴミを拾いながら散歩されている方を見ます。きれいだからこそ、さらにきれいにしたくなるのではないでしょうか。
		三条、四条大橋の下の左岸河川敷に大量の自転車が駐輪されています。花の回廊が出来た当初は川端通の歩道のみでしたが、最近は河川敷にも多く駐輪されています。左岸の三条、四条の橋の下付近は元々狭いのに、自転車があって特に狭くなっています。早く条例を作って規制すべきだと思います。人が川に落ちてからでは遅いです。
		景観を悪くしている原因の一つはホームレスである。対策をとるように。パトロールを行い管理を徹底。
		主に丸太町橋より下流だと思いますが、橋の下にホームレスが住み、汚く夏になると悪臭を放っています。火を使ったりしています。子供と近くを通るだけでも身の危険を感じることさえあります。鴨川だけではないと思いますが、河川敷に住んでも良いのでしょうか。
		河川敷を不法占拠しているホームレス対策を検討お願いします。
		橋の下の不法占拠者対策も皆で考えましょう。
		橋下住人の不法占拠を直ちに無くして下さい。
		・地上の清掃は「高齢者福祉事業団等の努力」によって完璧であるが「川の中」の清掃がなおざりになっている。 　※ 川の中にブルトーザは絶対に入れないで下さい。 ・公園や道の草刈りも非常によい。川の中は不充分。
		市内の方々の心の安らぎにとどまらない鴨川の意義を考え、民間NPO、官製NPOばかりでなく、行政を通して基金を受ける等、管理面(または治水面でも)での工夫が必要かと思います。 公と民の関係をもっと考えるべきと思います。
治水・防災に関すること	ハード対策	色々と対策が取られてきてはいるが、まだまだ思いもがけない災害が起こることは必定!!　　この懇談会に期待すること大!!
		洪水対策についても、ダムや地下貯留管などではなく、上流域の開発抑制、浸透施設など多様な対策を具体化していただきたい。
		水災対策としてハード面、ソフト面の議論も重要だが、上流域、森林の保全、そのあり方についても十分な議論をしていただきたい。
		川は元来、水路であると思います。 最近、集中的に降る雨に対応出来るよう、まず考えて欲しい。特に京都は、景観など取りざたされますが、街中を流れる川であり、水害のないよう心配りが欲しい。 野鳥を守るため草原や中州を残すことより洪水を考えて取り組んで欲しい。
		いつまでも洪水に危惧のない川でありますように！
		下水の合流管が鴨川に放流されているレベルが堤防の天井より下にある。川が増水すると管へ逆流し、街に流れがあふれる。
		夏になると川はどこを流れているのか？わからないほどになります。災害を考えると、とても心配です。中州を少なく出来ないものでしょうか。
		中州が広がってきているのが気になります。
		最近、冬場に中州をブルドーザーで均している事例が見られるが、その際、ちぎれた草の根が下流に流れ、至る所で引っかかっている状態にある。結果的に、それが新たな中州を形成、促進している。問題の解決にはなっていないどころか、より悪化させている。鳥の営巣などの問題はあるが浚渫などもっと抜本的な方策が必要ではないか。
		出来る限り自然な川の流れでありたい。中州や寄州の撤去は最低限に。河中にブルドーザー等を入れない。特に出町より上流。 ※出町より下流～五条の間は都市を流れる川、出町より上流は野を流れる川としてより自然な状態で ※七条より下流は大雨対策が必要
		・夕方に鴨川の三条～松原を歩き感じたのですが、西（右岸）側の店の下にあった石積みが掘り込まれ、窓が出来たところがあるように思います。昼間では、分からなかったのですが、夕方ですと、窓から明かりが見えます。先斗町通り、西石垣通り（木屋町通り）沿いの店のうち地階で営業しているところがあるようですが、あの窓は左岸の石積みの高さから見ても、洪水の時は水が入り込むのではないでしょうか。薄いガラス窓や、換気扇の通気口が鴨川の方に出ているところがあります。 ・鴨川の右岸の石積みは個人のものなのでしょうか。 ・鴨川はどこまでなのでしょうか。石積みを取り壊しても問題がないのでしょうか。 ・鴨川は三条大橋～団栗橋が特に狭いように思いますが、洪水となる時の水位はどこまでくるのか住民に知らせた方がよいのではないでしょうか。どこかに危険水位とかがわかる標識を建てた方が良いのではないでしょうか。 ・鴨川に隣接する店で地階を利用して営業している人は、鴨川があふれることをわかっているのでしょうか。 ・店を改造するときに、京都市の建築確認をする部局と連携を取って、鴨川の洪水水位より低いところでは営業行為ができないような建築制限をかけるべきではないでしょうか。

大分類	小分類	一般募集意見
治水・防災に関すること	ハード対策	鴨川流域の保水性舗装の採用等検討されてはいかがでしょう。
		景観について重視されていますが、河川本来の姿、役割を考えると共に治水についても多く議論してほしいと思います。
		施設の優先順位は①治水②景観です。 災害対策について、昨今の事例をみて、絶えず、検討し行動すること。
		都市においては必ず治水は必要になりますが、親水という点においては生態系の保全も必要となるので、河川の整備を進める上で考えていくべきです。 また、景観を考えたら親しみは増すと思う。
		水位、洪水－柊野ダムの改修～砂防堰堤に水量調節機能を持たせる。御池より下流の川底を下げる。
		安全な水位を保つため、適宜、浚渫してほしい。それも川中にできた地上部を昔はよく、土建業者が砂・砂利を採取していた。建築用材がタダで提供されていることと、水位を低く保つ効果があったと思う。
		河川に土砂で水の流れは悪くなると思われた 05/12/2 ウオッチングした。
		写真にでてくる鴨川は広く美しく、中洲と言っても美しい小島の様に見えますが、北大路橋より北の中洲の大きさは洪水のことを考えれば恐いほどです。
		中洲の肥大と洪水は重ねて考えてしまいます。
		計画高水流量 1,500t/s で再改修(河床切り下げ etc)を実施することは非現実的で考えない方がよい。
		100 年に一度、規模対策でも北部災害レベルに対処出来ない事を知る事が出来た事。
		上流・中流・下流それぞれの域に応じた治水対策が必要の意見はその通り。
		治水面で考えても上流域の自然環境がくずされている産廃処理場の現状は一年前に比べ、悪化してきている。府・市は継続的に調査されているのでしょうか？盛土が増え、一部、木をも倒している(台風のせい？)ところも。川幅と川面の面積が少なくなれば、大雨の時、流速が増す危険もある。
		ハード面の対策(河道堀下、拡幅)等、考えるべきでない。 流域の保水能力向上対策をもっと考えるべき。 流域での道路工事後の舗装を透水性舗装でなど考えられる手段をとっていただきたい。 又、100 年に一度の洪水を強調してほしくない。
		願わくば、立体の治水でなく、平面の治水と水治安とでも言うべきもので、水害と景観の文化に対応してほしい。
		(上流)水源の森林管理についても積極的に対処する必要があるでしょう。
		淀川(大阪府)の治水と合わして、木津川や桂川共々、治水・流量の管理が考えられる必要があるだろうから、その上で、必要な対策はハード面で対策をとらざるを得ないのだろう。 とりあえず、河床の掘削が必須では。自然環境(水生生物・野鳥)を考えながら。
		西村さんの話が興味深かったです。疎水でも、水があふれるのですね。
		御土居築造後、人命を失うような洪水の歴史と、御土居の除去(江戸時代)との関係を調べて下さい。 これが、ハードな管理と洪水制御との関係を考えさせるものになるのではないでしょうか。
		中洲や川辺の浚渫の問題は、自然破壊 → 蛍等が無くなる → 楽しみが減る → 鴨川が楽しくない → 鴨川に親しみを感じないという構図で市民は感じるわけです。ハード面の専門家に「親しむ楽しむ心」を持って効率主義でない「人間主義」で設計して欲しい。
		中洲を排除せず、計算的に残して行く方法はありませんか。
		嘉田先生のお考えに賛成する。 ハード的には、流域に遊水施設・防火用貯水槽などを上流域地下施設として構築することはできないものか。
	ソフト対策	生態系環境に配慮し、防災に強い住民参加型の河川行政政策の構築。
		流域の水循環を考える場合、浸透貯留の能力や合流式下水道の排水（降雨時）量の問題が住民には十分意識されていないと思います。
		これからの治水対策は行政が責任を持って対処するべきという考えでなく、昨今地震保険で自己責任で自らを守る方向にあることに鑑み、水害保険で対応していくことになるのではないか。 今後の鴨川を考える時は親水性を重視した施設であってほしい。
		白川の今出川分水路が出来た場合、白川の洪水と鴨川の洪水とどのような関係となるか。 鴨川の洪水ハザードマップ必要な地域をきめ細かく（町単位）誰にでもわかりやすく表したものがほしい。
		洪水に対する安全度の認識と対策を関係住民の皆さんに講じていただきたいと思います。
		治水対策－ある降雨強度に対しての対策になると思う。 それ以上の雨が降れば、役に立たないのは目に見えている。 ソフト面の対策は、ハザードマップの解説、広報等も行う必要があると思う。
		講演において、過去の水害の記憶を記録にする作業が今後のソフト面での重要な役割を果たすのでは。(行政も、市民も)
		計画高水流量 1,000t/s を上廻る洪水の時の被害状況を市民に認識して頂く方策を講じ、日頃から対応して頂く心構えをもってもらうことが肝要と思います。
		日常的に楽しく鴨川を利用しながら、治水・遊水活動が出来ないものか？例えば、一部いろんな会で地区毎に行っている清掃等の活動している市民との共営が出来ないものでしょうか？田中委員が話していた NETWORK 化等々の中味まで深堀りして欲しい。

大分類	小分類	一般募集意見
治水・防災に関すること	ソフト対策	嘉田先生のお話にあった様に、地域の人のつながり、意識の変化等の本来の治水以外での考えを持つことの大切さがわかった。 技術的な話も大切ですが、市民の人達はこの様な話が共感できるのではないでしょうか。
		情報の共有は第一歩ですが、多くの情報の取捨選択が難しい(専門家でもなんでも)ので、選択ルールを話し合えばよいのではないでしょうか？
		水害教育の必要性については同感でした。
		一方、あらゆる自然災害に対する自己管理は絶対必要であり、すべて安全化することが帰って、人間の知恵をダメにしてしまったように思う。誰しも、危険を体験してこそ、身を守ることが多いので、その機会を奪うのも教育にはならない。 学校教育と地域(自治会)ごとのコミュニティをしっかり進めてもらいたい。
歴史文化に関すること	歴史文化	鴨川は町中にある貴重な自然と景観だけでなく、歴史・文化を感じさせ、人を呼び集める魅力ある川だと思います。
		京都の歴史文化伝統が、他の都市とは比べようがない
		京都の中心を流れる美しい川、鴨川は人の心を癒し楽しませてくれる大切な川です。
		鴨川の歴史、特性がよくわかった。
		治水だけでなく水文化にもつながるこのような点について調査結果を過去の一定の時期に比較して数量的なデータを示していただいた方が住民により課題が理解されるのではないでしょうか。
		みなさんもっと強気に行動していいと思います。 １２００年の歴史があり、都市としても過去の文化も残っている街は世界に京都しかないと思います。 京都だけでなく、日本に、世界に支援者が大量にいますよ。 計画が具体的なら必ず実現できると思います。（例　鴨川東側の景観改善）
		鴨川は伝統もあり素晴らしい。 その伝統を守り、残していかねばならない。
その他　鴨川に関すること	鴨川全般	他県から結婚などで、45 年前から市民となり鴨川が大好きです。
		鴨川は日本中の代表、いや憧れの川です。
		改めて、京都を南北に貫く鴨川の存在の大きさを実感させられました。
		行政に期待されていることが多く、また行政が指導．規制等を行うことが当たり前のような風潮になるが、個々の思い、行動が大切である。
		故蜷川知事の発想、強い指導力の効果を感じる。
		河川整備計画の案は、いつ提示されるのでしょうか？
		訪れる人がいる。話題になる。何とか良くしたいと考えている人がいる。「いい川」というのはそういう川だと思う。 鴨川は「いい川」の条件を充分備えている。 具体的な結論を急がず、じっくり議論していけばよいと思う。
		行政の住民参加。住民の行政参加の発想は、これからの鴨川対策には有効な考えだと思う。
	その他　鴨川全般	鴨川の管理者は京都府(京都土木務所)でいただいておりますが地域性でいえば、流域すべてが京都市内であり、支流の管理も住民と一体化が欠せないので、もっと京都市の行政の中で、他の部局との連携をしながら、進めれば市民の洪水に対するハード面・ソフト面、両面の認識度が高められると思います。
		みその橋より北は川はどこを流れてるの？